

新・湯治による効果の把握

～みんなの新・湯治プロジェクト～

環境省では、平成30年度から、全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを実施しています。本調査は、全国の温泉地全体での療養効果を把握し、今後の温泉地の新たなあり方を考えるものです。

WEBアンケートは約3～4分程度で回答できるものですので是非御協力下さい。

どんなプロジェクト？

- 全国各地の温泉利用者に環境省が作成する統一フォーマット（調査票）に携帯やPCからWeb画面での入力をお願いし、環境省がデータを集約します。
- 全国のデータを取りまとめて公表（年度ごとの予定）します。
- 令和元年度は、19の温泉地で実施（有効回答数：4,180人）。性別を問わず、一定の良好な変化があることを確認できました。
- 今年度は温泉地を限定せず、全国どちらの温泉利用でもアンケートにお答えいただけます。

WEBアンケートは下記QRコード
もしくは
URLからお入りください



https://www.jph-ri.or.jp/shintoji/form_shintoji.html

（ご注意）

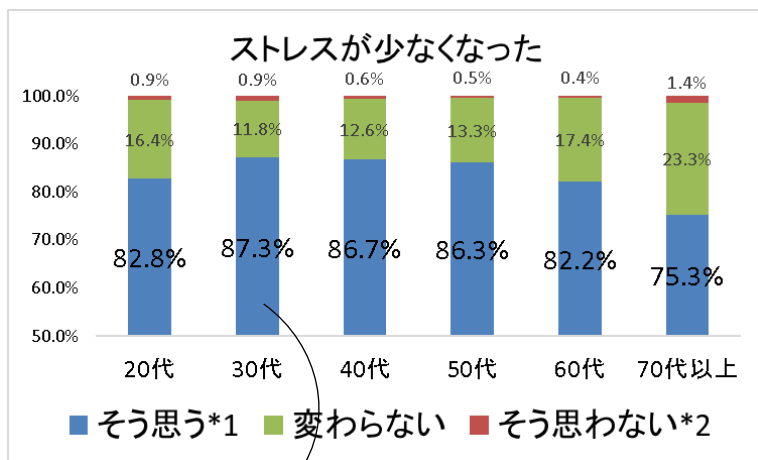
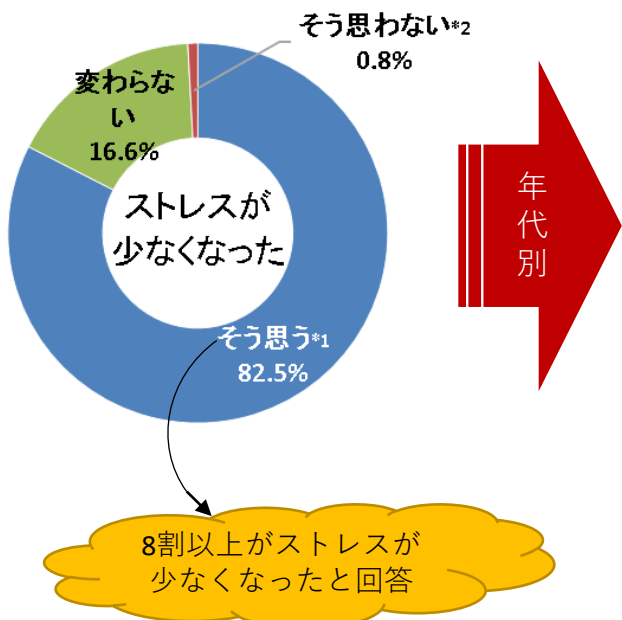
設問【1】では、「温泉地」は「その他」を選択し、その上で今回利用された温泉地の所在する都道府県名をプルダウンメニューから選択の上、具体的な温泉地名を入力してください。

どんなことがわかったの？

■ 主な調査結果（平成30年度調査結果より）

結果①

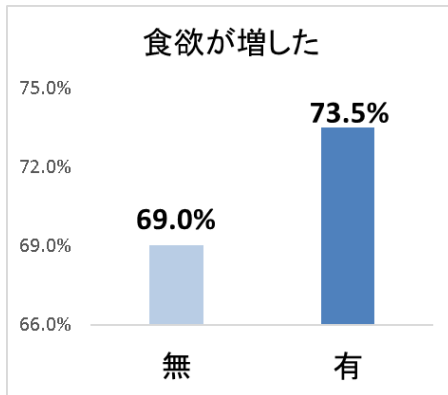
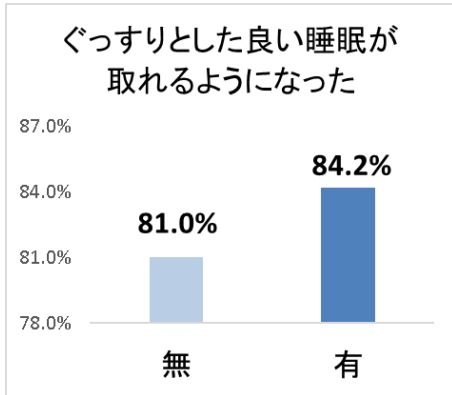
温泉地滞在後は、心身に良い変化が認められただけでなく、年代別でその変化には違い（有意差）が見られました。



*1「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計
*2「全くそう思わない」、「そう思わない」及び「ややそう思わない」の合計

結果②

単に湯に浸かるだけではなく、温泉地で何らかのアクティビティを行うことが、心身へのより良い変化を促していました。

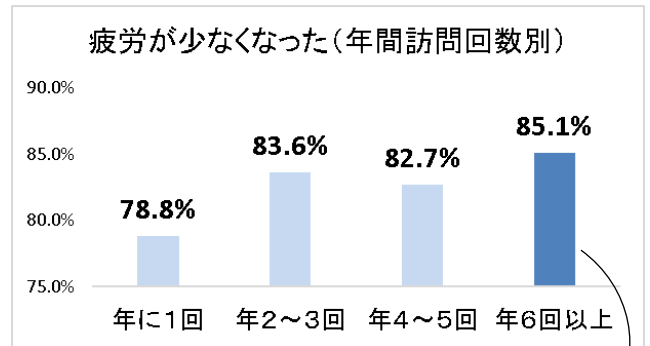
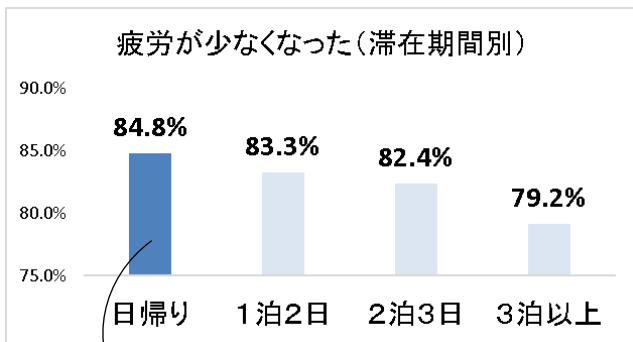


温泉入浴に加え、
アクティビティを
楽しむことで
より良い心身の
変化を期待

*「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計

結果③

長期間の温泉地滞在ではなくても、年間を通して高頻度で温泉を訪れることで、心身への良い影響があると考えられました。



「日帰り」の改善
割合が最も高い

「年6回以上」の
改善割合が最も高い

*「とてもそう思う」、「そう思う」及び「ややそう思う」の合計

令和元年度は以下の温泉地が参加いたしました。ご協力ありがとうございました。（記載は受付順）

No	申請施設・団体名	調査地域	No	申請施設・団体名	調査地域
1	日本大学スポーツ科学部	鹿教湯温泉組合	11	ニセコ町	昆布温泉 甘露の森・栞の庄・ワンニセコ・グランドホテル・五色温泉旅館
2	三重県保健環境研究所	三重県内	12	筑後川温泉旅館組合	筑後川温泉地内
3	北海道温泉研究会	開拓ふくろふ乃湯	13	四条啜学園大学 リハビリテーション学部	白浜椿の郷、白浜日置の郷 道の駅「椿はなの湯」
4	高湯温泉観光協会	高湯温泉宿泊施設 高湯温泉共同浴場	14	東海大学海洋学部	畑毛温泉（函南町観光協会）
5	俵山温泉合名会社	俵山温泉内入浴施設	15	新温泉町	浜坂温泉・七釜温泉・湯村温泉
6	酸ヶ湯温泉株式会社	酸ヶ湯温泉	16	大分県福祉保健部 健康づくり支援課	別府市・竹田市・豊後高田市
7	鳥取県三朝町役場	三朝温泉	17	湯田温泉配給協同組合	湯田温泉
8	五頭温泉郷旅館協同組合	五頭温泉郷地内	18	株式会社JTBガイアレック	草津・熱海・四万・鳴子温泉
9	東海大学海洋学部	豊後高田市 くにさき六郷温泉地内	19	山形県温泉協会	蔵王温泉・小野川温泉・天童温泉
10	静岡県温泉協会	静岡県川根温泉ふれあいの泉			

実施主体 環境省自然環境局
自然環境整備課温泉地保護利用推進室
(調査票・実施マニュアル等はこちら)
https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html

みんなの新・湯治 🔍 で検索

本プロジェクトについてのお問い合わせ

(2020年度プロジェクト事務局)
一般財団法人 日本健康開発財団
メールアドレス: toji@jph-ri.or.jp
TEL:03-5290-1621 FAX:03-5290-1622
住所:東京都中央区日本橋3-1-4画廊ビル8階